

耐震診断の結果の標記について

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
○	○○	奈良市 ○○	○○	○○	$I_s / I_{SO}^{\text{①}} = 0.43^{\text{②}}$ $C_{TU} \cdot S_D^{\text{③}} = 0.31^{\text{④}}$	耐震改修	○年○月○日 着工予定	

<記号と数値の意味>

① I_s 値(構造耐震指標):構造体の耐震性能を表す指標

I_{SO} 値(構造耐震判定指標):想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標

$$I_{SO} = E_s \times Z \times G \times U$$

E_s :耐震判定基本指数(第1次=0.8、2次・3次=0.6に設定)

Z :地域指標。その地域の地震活動や想定する地震動の強さによる補正係数

G :地盤指標。表層地盤の増幅特性、地形効果、地盤と建物の相互作用等による補正係数

U :用途指標。建物の用途などによる補正係数

② 当該建築物の各階、各方向の I_s / I_{SO} 値 又は I_s 値のうち、最小のものを指す

③ $C_{TU} S_D$ 値、 $C_T S_D$ 値:主に鉄筋コンクリート造に適用され、構造体の粘り強さ、建築物の平面・立面形状等から求まる耐震性能に係る指標

q 値:主に鉄骨造に適用される保有水平耐力に係る指標

④ 当該建築物の各階、各方向の $C_{TU} S_D$ 値 又は q 値のうち、最小のものを指す

※ 判定値 $C_{TU} S_D = 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ (特に記載がなければ、 $Z=1.0$ 、 $G=1.0$ 、 $U=1.0$)

※ 判定値 $q=1.0$

■ 建築物の名称

- ・ 所有者から報告のあった名称で記載しています。
- ・ 旧耐震基準で設計された構造上独立した部分が複数ある場合には、それぞれの診断方法と診断結果を掲載しています。

■ 構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果

- ・ 各階の各方向(直交する2方向)について実施された耐震診断の結果のうち、最小値(地震に対する安全性が最も低く評価される値)を記載しています。
- ・ 当該欄に記載されている数値を附表に記載されている「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」の区分(I・II・III)に記載された指標と比較し、建築物の安全性を評価します。

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の区分

区分	安全性
I	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い
II	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
III	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

- ・ 耐震改修工事実施済みの場合は、耐震改修工事後の耐震診断結果を掲載しています。
- ・ 地震に対する安全性については、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示し

ます。

- ・ いずれの区分に該当する場合も、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度 5 強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。

■ 耐震改修等の予定

- ・ 所有者から報告のあった今後の改修等の予定及び実施時期を記載しています。
- ・ 「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」の評価の区分が、「Ⅲ：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」となる建築物については、「内容」及び「実施時期」について「 - 」と記載しています。